Zennoh-akita agriculture+reform

Za・あぐりふぉーむ

2020.12.7
Vol.10

ミニトマト
撮影日：８月１８日　秋田市　民家菜園

目次

生産現場情報：しいたけ産地の一翼を担う農事組合法人 みずほ！・・・・・・・・・・・Ｐ２～３
営農支援情報：マッスルスーツで作業負荷軽減・腰痛予防・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
県外情報：あきた舞妓が「秋田県産ねぎ・椎茸・りんご」をＰＲ・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
ご紹介：①「サキホコレ」に決定！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６～７
②令和２年度ＪＡ６次産業化担当者研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８
③金足農業高等学校の生徒が育てた秋田県産あきたこまち「金農米」を販売！・・Ｐ９
お知らせ：共同購入トラクター第２弾登場！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１０

生産現場情報

しいたけ産地の一翼を担う農事組合法人 みずほ！

１．しいたけ三冠王の中核産地ＪＡ秋田ふるさと

秋田県では２０１７年度から「秋田のしいたけ販売三冠王獲得事業」を展開していますが、２０１９年度の京浜地区中央卸売市場での県産しいたけの出荷量は２，２４１ｔ、販売額２６億円、１キロ当たり販売単価１，１７７円と出荷量・販売額・販売単価のすべてで初めて全国一を達成しました。

京浜地区中央卸売市場における秋田県産しいたけ

出荷量	２０１７年度		２０１８年度		２０１９年度	
１位	岩手	2,239 t	岩手	2,174 t	秋田	2,241 t
２位	秋田	1,888 t	秋田	2,171 t	岩手	2,105 t
３位	栃木	966 t	栃木	1,280 t	栃木	1,169 t

販売額	２０１７年度		２０１８年度		２０１９年度	
１位	秋田	24億円	秋田	25億円	秋田	26億円
２位	岩手	21億円	岩手	19億円	岩手	18億円
３位	栃木	10億円	栃木	10億円	栃木	10億円

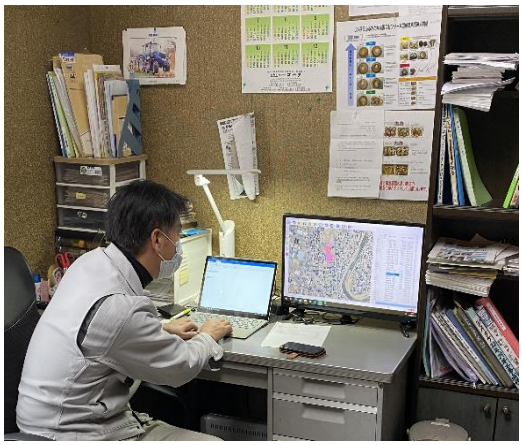
販売単価	２０１７年度		２０１８年度		２０１９年度	
１位	秋田	1,281円	秋田	1,194円	秋田	1,177円
２位	栃木	1,096円	岩手	917円	栃木	890円
３位	岩手	965円	栃木	849円	岩手	860円

(注)秋田県園芸振興課調べ、販売単価は１キロ当たり

本県のしいたけ生産の中核を担うのが県南平鹿地区のＪＡ秋田ふるさとです。基幹作物の米をはじめキュウリやトマト、アスパラガス、スイカなどの野菜、リンゴ、ブドウなどの果樹、菊、ユリ、トルコギキョウなどの花き、肉用牛、豚などの畜産のほか、しいたけなどの菌茸類の生産も盛んで、販売額２００億円を超える県内でも有数の複合産地を形成しています。特に、２０１９年度のしいたけの生産量は１，８１６ｔ、販売額２２億６千万円超に上り、取扱い品目トップの売り上げを誇っています。

２．農事組合法人 みずほの取り組み

ＪＡ秋田ふるさと管内において、しいたけ産地の一翼を担っているのが農事組合法人みずほです。農業従事者の高齢化が進むなか、地域の担い手として農地を引き受け、地域農業を支えるため、２０１１年５月に設立されました。



Ｚ－ＧＩＳの操作状況

①法人の概要

名　称　農事組合法人みずほ（代表　熊谷　正）
設　立　平成２３年５月２日（２０１１年）
構　成　４人（他、従業員８人、季節雇用１０人）
所在地　横手市睦成字久保の目１１０

②経営の概要

水　　稲　４５ｈａ（あきたこまち、めんこいな他）
枝　　豆　２．８ｈａ
しいたけ　５４，０００菌床（ハウス６棟）

③取組の特徴

土地利用については、水稲と枝豆の約２００カ所のほ場を効率よく管理するため、地図と連動させて作業履歴やデータ管理を行う全農の営農管理システムＺ－ＧＩＳを活用しているほか、本年よ

り新たにドローンを導入し薬剤散布に活用して省力化を図っています。

同法人では、透明のトレイに菌床ブロック下半分を水没させて発生個所を制限する「半上面方式」（北研７０５）と袋のまま栽培する「上面方式」（北研６０７）２種類の菌床ブロックの併用により、適期収穫を逃さないようバランスをとりながら栽培してます。

横手きのこセンターから一次培養済の菌床ブロックを導入し、生産者施設での二次培養を経たうえで発生させて収穫を行っています。収穫されたしいたけは、全農あきた県南園芸センターにて選別・包装されて市場へ出荷され、年間の出荷量は約１８．３ｔ（令和元年実績）です。

また、ＪＡで試験導入しているＩＣＴ技術を使った機器で、ハウス内の温度、湿度、照度、二酸化炭素CO_2濃度、ブロック内温度を計測してスマホ等と連動したスマート農業も実践しています。

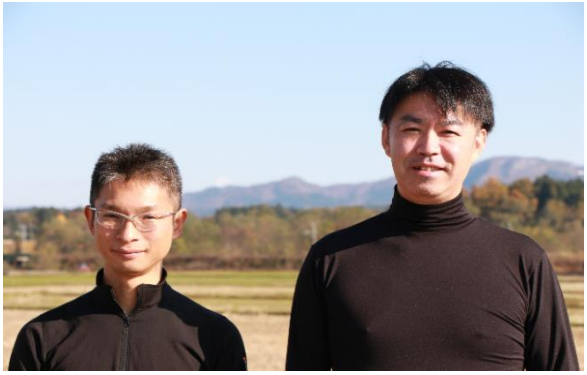
しいたけ発生舎内

各種センサー

スマホで確認

④課題と今後の展開

借入農地のなかには小区画や排水不良などの条件不利地があり、効率的に土地利用するうえでネックとなっていることから、これらの改善が課題となっています。



しいたけ部門主担当の山崎さん(左)と熊谷理事(右)

今後は、農業所得の向上に向けて、特に菌床しいたけの規模拡大を図るとともに、後継者の確保・育成や従業員等への円滑な栽培技術の継承など、法人組織の維持・発展に向けた取り組みを推進していきます。また、ＩｏＴやＩＣＴ技術の積極的な活用や若い人が農業を就職の場として捉えられる職場環境づくりにも努めていくことにしています。

営農支援部 営農支援課　☎018-864-2461

営農支援情報

マッスルスーツで作業負荷軽減・腰痛予防

あらゆる産業における機械化の進展は日進月歩ですが、農業分野でも例外なく機械化が進んできています。しかしながら、生産現場では「持ち上げる」「運ぶ」など、どうしても肉体労働に頼らざるを得ない作業が存在し、特に高齢者にとってはかなりの肉体的負担を強いられ、作業の非効率化の要因ともなっています。

昨今、パワーアシストスーツやマッスルスーツなど、人の力や仕事を補助する機能をもつスーツを新聞広告等で目にする機会が増えてきています。体力が低下した高齢者でも作業がしやすくなるほか、腰痛を予防するなどの利点があります。

そこで本号では東京理科大学発のベンチャー企業の㈱イノフィス製のマッスルスーツＥｖｅｒｙを例にその特徴などについてご紹介いたします。

〇電気不要で省エネ、パワフル

駆動源は圧縮空気で時間の制限はなく、最大２５.５ｋｇｆのアシスト力。

〇軽量

本体重量（カバー含まず）は３.８ｋｇと軽量。

〇簡単な装着

①肩ベルトでリュックのように背負う、②腰ベルト・お尻ベルトを調整、③腿パッドを前に回す、④手動式空気入れで空気を充填し補助力を調整　の４つの動作で簡単に装着でき、操作の習熟も不要。

㈱イノフィスのマッスルスーツEvery

〇２つのタイプ

ソフトフィット：米袋やコンテナの運搬、パレットや床近くまで屈む作業向き

タイトフィット：ベッドや作業台等で中腰姿勢を維持する作業向き

〇２つのサイズ

Ｓ－Ｍサイズ：身長１５０～１６５ｃｍ（推奨）

Ｍ－Ｌサイズ：身長１６０～１８５ｃｍ（推奨）

（注）商品の詳細等については、㈱イノフィスのホームページ（https://musclesuit.co.jp）をご覧ください。

園芸畜産部 農産資材課　☎018-864-2450

県外情報

～あきた舞妓が「秋田県産ねぎ・椎茸・りんご」をＰＲ～

今年度は、新型コロナウイルスの影響により県外の量販店などで試食宣伝会が実施できないため、新たな販促ツールとしてデジタルサイネージで放映する秋田県産ねぎ、椎茸、りんごのＰＲ動画を作成しました。

動画ではレシピの紹介のほか、「あきた舞妓」がそれぞれの野菜を両手に持ち、華麗な踊りを披露しながらＰＲしています。関東近県の協力量販店で１１月から放映中です。

○ＪＡ全農あきたホームページで動画配信しています。

⇒http://www.ak.zennoh.or.jp/

園芸畜産部 園芸課　☎018-864-2491

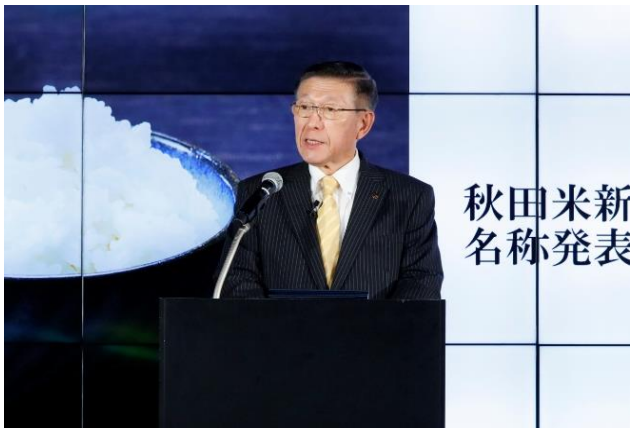
ご紹介

「サキホコレ」に決定！

～令和４年市場デビュー秋田県オリジナル新品種米「秋系８２１」名称決定～

令和４年の市場デビューを目指す秋田県オリジナル新品種米「秋系８２１」の名称が「サキホコレ」に決定しました。今春に実施したネーミング案公募には全国から２５万８９３件の応募が寄せられました。選考をすすめながら、８月下旬に秋田県やＪＡ全農あきたなどで組織する「秋田米新品種ブランド化戦略本部」の名称選考部会で絞り込まれた６案の中から佐竹敬久秋田県知事が決定しました。

１１月１７日に東京都で開催された名称発表イベントには、ＪＡ秋田中央会の斉藤一志会長やＪＡ全農あきたの小林和久県本部長が出席、「あきた美の国大使」を務める秋田県出身の女優・佐々木希さんが「『サキホコレ』です！」と発表しました。この名前には「秋田の地力」から生まれた「小さなひと株」が誇らしげに咲き広がって、日本の食卓を幸せにしてほしいとの思いが込められています。また、生産者や消費者に明るい力を与えてくれる「エール」でもあります。佐竹知事は「夏のほんのわずかな時間、稲穂には小さな花が咲き、豊作をもたらす。秋田県民歌の『黄金と実りて豊けき秋田』の情景が浮かんだ。郷土に『誇り』を持つという意味も込めた。語呂もいい」と選考理由を話しました。



選考理由を語る佐竹知事

「しっかりと生産していく」と語る斉藤会長

ＪＡ秋田中央会の斉藤会長は「生産者が誇りを持って作れるような立派な名前。品種特性がしっかり生かされるような栽培方法で期待に応えていきたい」と語りました。

同日、秋田市のエリアなかいちでは、パブリックビューイングが行われ、会場に集まった人達に「サキホコレ」のおにぎりが配られました。

「サキホコレです！」と発表されると、会場からは大きな拍手がわきました。

会場で配布された「サキホコレ」のおにぎり

～朝ごはんモーニングキャンペーン　「サキホコレ」のおにぎりを配布～

声をかけながら、おにぎりを手渡しました。

秋田県や農業団体で構成する秋田県ごはん食推進会議は１１月２５日、ＪＲ秋田駅で「朝ごはんモーニングキャンペーン」を開催しました。新品種「サキホコレ」で作った５０００個のおにぎりを、佐竹敬久秋田県知事をはじめ、県職員やＪＡグループ秋田の関係者など約５０人が「朝ごはん食べてきましたか？」などと呼びかけながら秋田駅利用者に手渡しました。

このキャンペーンは米を中心とした日本型食生活の良さをＰＲするとともに、毎日の朝食を呼びかけ、米の消費拡大と健康的な食生活の普及を図ろうと、平成１１年に始まり、今回で２２回目の開催となります。

ご紹介

～令和２年度ＪＡ６次産業化担当者研修会～

ＪＡグループ秋田県域営農センターは１１月１２日、６次産業化へのスキルアップとモチベーションアップを目的とした研修会を開催しました。今年はＪＡ直売所担当者、生活指導員や関係者約２０名が参加しました。

研修では、べっけＡＮＮ・ＡＮ泉牧子代表が「ＪＡ直売所の魅力再発見、新たな６次化を目指して！」と題し講演をおこないました。「国民が支払う飲食代のうち生鮮品は減少し、加工品は増大している。特に秋田県は地産地消の『地消』の部分が確実に減少している。地産地消だけをうたっても生き残れない。県外に送り出す為にはに６次化の取り組みは大切」などと話し、自身の経験から地域連携や女性のアイデアを取り入れた商品開発などのほか、品種を組み合わた野菜など規格にとらわれない直売所での販売方法、ＰＯＰやのぼりを使用した効果的な宣伝方法など、お客さんをもてなす直売所づくりと秋田の商品をいかに県外に送り出すか双方の視点から講演し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

次に、「ＪＡ直売所にかかる課題と今後の対応について」と題し意見交換会を行いました。各直売所や生活指導員の取り組みについてそれぞれ話し、加工品を含めた秋田県産農畜産物を県外に送り出すための技術習得や、直売所に並ぶ漬物や伝統料理の食文化を支える生産者の高齢化による継承問題、令和３年６月に義務化されるＨＡＣＣＰなどの問題のほか、価格決定や日付の表示、陳列方法などお互いが工夫している情報を共有しました。研修の参加者からは「直売所の担当者が集まる機会はあまりないので、勉強になった」「真空技術など消費期限の短い商品を発送する為の勉強会を開催してほしい」、「このような意見交換会を継続して開催してほしい」などの声が聞かれました。

営農支援部 営農支援課　☎018-864-2461

ご紹介

～金足農業高等学校の生徒が育てた秋田県産あきたこまち『金農米』を販売！～

秋田県立金足農業高等学校の生徒たちが、学校の実習田で丹精込めて育てた秋田県産あきたこまちを「金農米（かなのうまい）」として販売しています！

秋田県立金足農業高校：通称「金農（かなのう）」では、２・３年生が種まきから苗を育て、毎年１年生が約２５ａの田んぼに「あきたこまち」の苗を手植えするのが恒例となっています。

ＪＡ秋田なまはげ・ＪＡ全農あきたは、食農教育の一環として、生徒が育てたお米を通じた取り組みを行ってきています。これまでは産業フェアや量販店での試食販売会を通じてＰＲしてきましたが、新型コロナウイルスの影響下のなか、今年度は新たな取り組みとして「金農米専用米袋」を作成しました。秋田県内の量販店やＪＡタウンで１１月２１日から販売しています。

米穀部 パールライス課　☎018-845-8000

お知らせ

共同購入トラクター第２弾登場！

生産資材部 農業機械課　☎018-880-1622

Za・あぐりふぉーむ
Zennoh-akita agriculture+reform
JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふぉーむ
第10号　令和2年12月7日発行
編集・発行　JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号　018-864-2462